

甘味があり茹でラッカセイに向く大粒種

おおまさりネオ **PVP** ラッカセイ

品種登録番号:第29271号  
 育成者権者:千葉県  
 登録品種期限満了:2047年6月15日  
 海外持出禁止(農林水産大臣公示有)

千葉県が育成した「おおまさり」は、極めて大莢で甘さも強く、食味の良い茹で豆用の品種であるものの、大株で栽培しづらい、病気に弱いなどの短所もあります。そこで、千葉県は「おおまさり」の後継品種として株がコンパクトで病気にも強く栽培しやすい「おおまさりネオ」を、10年以上かけて育成しました。本稿では「おおまさり」と「おおまさりネオ」の特徴の違いを3つのポイントに絞って解説します。

①草姿

草姿立性で、半立性の「おおまさり」と比べ株が横に広がらず、また最長分枝長も「おおまさり」と比べて短い。



※写真は、播種後70日の時点での草姿の比較

②莢実・収量

莢実の大きさは「おおまさり」並みで、茹で豆とした際の収量、製品率、食味は「おおまさり」と同程度。

※引用元は、「千葉県農林総合研究センター」



	平均 茹で豆 製品重(kg/10a)	平均 茹で豆 製品率(%)	食味評価(1:美味 しくない~5:美味しい)
おおまさりネオ	381	30.8	3.6
おおまさり	338	27.6	3.4

③病害

白絹病

【症状】

地際部が侵され白い菌糸が密生し、茎葉部が黄変してしおれ、生育不良や枯死に至ります。高温・多湿条件で発生が多くみられます。

【対策】

被害株は周囲の土壌とともに早めに抜き取り、圃場外に搬出します。土壌伝染性の病害なので、多発圃場は5~6年作付けを避けます。天地返しにより菌核を土中深く埋設するのも有効です。薬剤防除として、登録のある殺菌剤を散布します。



茎腐病

【症状】

茎の地際部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死します。枯れて黒褐色となった株の茎表面には多数の小黒点が生じます。

【対策】

土壌伝染性の病害で圃場に菌が残るので、多発圃場では4~5年間作付けないようにします。発病株を見つけたら早めに抜き取り、表土と一緒に圃場外に搬出します。病株は堆肥にしないようにしましょう。発生初期から登録のある殺菌剤を数回散布します。



※農薬を使用する場合はラベルをよく確認し、使用基準を遵守しましょう。また、地域、出荷団体もしくは出荷先の登録・使用基準に従って下さい。

栽培のポイント

①施肥は慣行品種と同程度

- ・10aあたりの成分量で、チッソ(N)、リン酸(P)、カリ(K)は、3kg、12~15kg、12~15kg程度が目安です。
- ・苦土石灰は10a当たり60kg程度が目安です。

②株間は30cm

- ・一般的に用いられている9230規格のマルチ(2条、マルチ幅95cm、株間30cm、条間45cm)で栽培できます。
- ・10aあたりの栽植密度は5,000株程度で、播種量では1粒播きの場合、むき実の乾燥子実で約7~8kg(約10~15ℓ相当)です。

③開花期後20日以降から定期的な灌水を

- ・土壌が乾燥していると空莢が発生しやすくなります。開花期後20日以降は、10日に1回程度灌水をしてください。

④収穫は開花期後90日を目安に

- ・開花期から90日頃が収穫適期です。
- ・収穫予定の10日ほど前に試し掘りを行い、莢の網目が発達しているかを観察し、収穫適期を把握してください。